



ツバキ（千重咲き）



千重咲きは花弁の重なりが多く、花芯に雄しべがほとんど見られないツバキです。





ツバキ（唐子咲き）

唐子咲きは花芯のおしべ全体あるいは葯(花粉の入った袋)が小さな花弁に変形したツバキです。





ツバキ（肥後椿）

肥後椿は江戸時代に肥後藩(熊本県を中心とした地域)において育成されたものです。花が一重平開咲きの大・中輪で、雄しべは梅芯型および輪芯型に分かれています。





ツバキ（変わり葉ツバキ）

変わり葉ツバキは、葉の形状に特徴のあるツバキです。





ツバキ（佗助）

植物分類学上、位置付けの大変難しいものが「ワビスケ(佗助)」と称される一群です。子房に毛が多いツバキの総称で、花形は極小輪～小輪で、かつ雄しべが退化して花粉のないものが多く、その分類上の位置を明確にすることができないものです。





ヤブツバキ

Camellia japonica L. ツバキ科 (Theaceae)



北海道を除く日本全土(青森県の夏泊半島に自生するものが北限)、朝鮮半島の南部および台湾の北部だけに自生します。日本海側では秋田県・男鹿半島の能登山が北限とされています。花は基部の癒合した筒咲きで、花糸は長く白色です。花は萎れないうちに落ちる性質があります。





ユキツバキ

Camellia rusticana Honda ツバキ科 (Theaceae)



滋賀県の北部、北陸地方の山間部および秋田県の雪の多い地帯に分布しています。花は基部近くまで切れ込んだ平開咲き(水平に広く開く)で、花糸は黄色で短く、基部近くまで切れ込んでいます。花は開花が終っても落ちにくい性質があります。

